調査の概要

■ 調査テーマ
「犯罪の起きにくい社会づくり」について

■ 調査目的
東京都の治安や「犯罪の起きにくい社会づくり」のための各種施策等についての意識を調査し、今後の施策等の参考とするため

■ 調査期間
平成24年7月10日（火）から平成24年7月23日（月）までの間

■ 調査方法
インターネットを利用したアンケート調査

■ 調査対象（平成24年度けいしちょう安全安心モニター）
954名
※　公募した満18歳以上の都内在住者、在勤者又は在学者

■ 回答者数
929名（回答率　97．4％）

■ 回答者の属性

属性			回収数	構成比
全体			929	100.0%
性別	男　性		458	49.3%
	女　性		471	50.7%
年代別	１８歳～１９歳		19	2.0%
	２０代		120	12.9%
	３０代		187	20.1%
	４０代		181	19.5%
	５０代		140	15.1%
	６０代		162	17.4%
	７０歳以上		120	12.9%
職業別	会社員		291	31.3%
	公務員		20	2.2%
	自営業		90	9.7%
	パート・アルバイト		88	9.5%
	学　生		62	6.7%
	主　婦		213	22.9%
	無　職		127	13.7%
	その他		38	4.1%
居住地域別	都内在住	２３区部	585	63.0%
		市町村部	312	33.6%
	都外在住		32	3.4%

※　集計結果は、百分率（%）で示している。少数点以下第２位を四捨五入して算出した。そのため、合計が100.0%にならないものがある。
※　n（number of cases）は、比率算出の基数であり、100%が何人の回答者に相当するかを示す。

平成24年度けいしちょう安全安心モニター制度
第1回アンケート

「犯罪の起きにくい社会づくり」について

「安全で安心して暮らせる街、東京」の実現に向け、警視庁では、「規範意識の向上」と「地域の絆の再生」をキーワードとして、「犯罪の起きにくい社会づくり」に取り組んでいます。

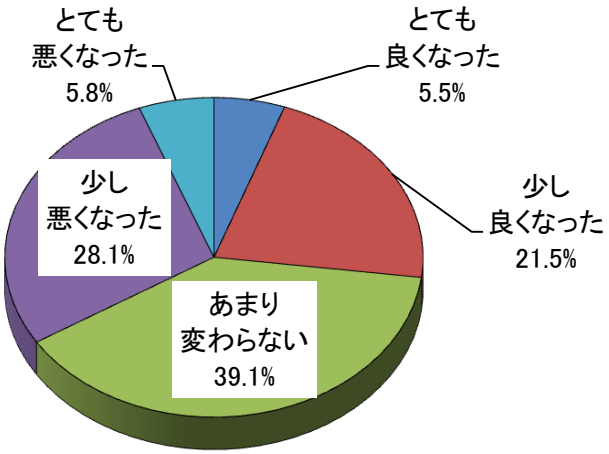
今回のアンケートは、皆様が日頃、どのような犯罪に不安を感じているか、また、現在、推進している施策について、どのように考えているかなどをお聞きして、「犯罪の起きにくい社会をづくり」のための施策等に活用させていただくものです。

◇東京都の治安について
Ｑ１　現在の東京都の治安は、１０年前と比較して良くなったと思いますか。・・・・・・３
Ｑ２　日常生活において、現在又は近い将来、自分や家族が、何らかの犯罪に巻き込まれるかもしれないという不安を感じていますか。・・・・・・５
Ｑ３　日常生活において、自分や家族が巻き込まれるかもしれないと思うのは、どのような犯罪ですか。・・・・・・７
Ｑ４　自分や家族が、何らかの犯罪に巻き込まれるかもしれないと思うのは、どのような理由からですか。・・・・・・８
◇「犯罪の起きにくい社会づくり」への取組について
Ｑ５　今後、「犯罪の起きにくい社会づくり」のために、積極的に推進してほしいのはどのような取組ですか。・・・・・・９
◇防犯ボランティア活動について
Ｑ６　今までに、防犯ボランティア活動に参加したことがありますか。・・・・・１０
Ｑ７　現在、参加している防犯ボランティア活動は、どのような活動ですか。・・・・・１２
Ｑ８　現在、防犯ボランティア活動に参加していない理由は、どのような理由からですか。・・・・・１３
Ｑ９　今後、どのような防犯ボランティア活動に参加してみたいですか。・・・・・１４
◇サイバー空間の安全について
Ｑ１０　電子メール以外で、どのようなインターネット上のサービスを利用していますか。・・・・・１５
Ｑ１１　インターネットを利用していて、どのようなことに不安を感じますか。・・・・・１６
Ｑ１２　インターネット上で、どのようなトラブルに遭ったことがありますか。・・・・・１７
Ｑ１３　インターネットを利用した犯罪の被害に遭わないために、どのような対策を取っていますか。・・・・・１８
Ｑ１４　サイバー犯罪や情報セキュリティに関する情報を、どこで入手していますか。・・・・・１９
◇薬物による健康被害事案の防止について
Ｑ１５　薬物による健康被害事案の発生を防止するため、今後、どのような対応を求めますか。・・・・・２０
◇路上等における刃物を使用した犯罪の防止について
Ｑ１６　路上等における刃物を使用した犯罪を防止するために、どのような対応を求めますか。・・・・・２１
◇防犯カメラについて
Ｑ１７　防犯カメラについて、どのようなイメージを持っていますか。・・・・・２２
Ｑ１８　防犯カメラの設置について、どのようなご意見をお持ちですか。・・・・・２３
Ｑ１９　防犯カメラを設置してもらいたいと思う場所は、どのような場所ですか。・・・・２４
◇「安全で安心して暮らせる街、東京」の実現に向けた取組について
Ｑ２０　「安全で安心して暮らせる街、東京」の実現に向けて、あなたが警察に求める取組についてお聞かせください。（記述式）・・・・・２５

東京都の治安について

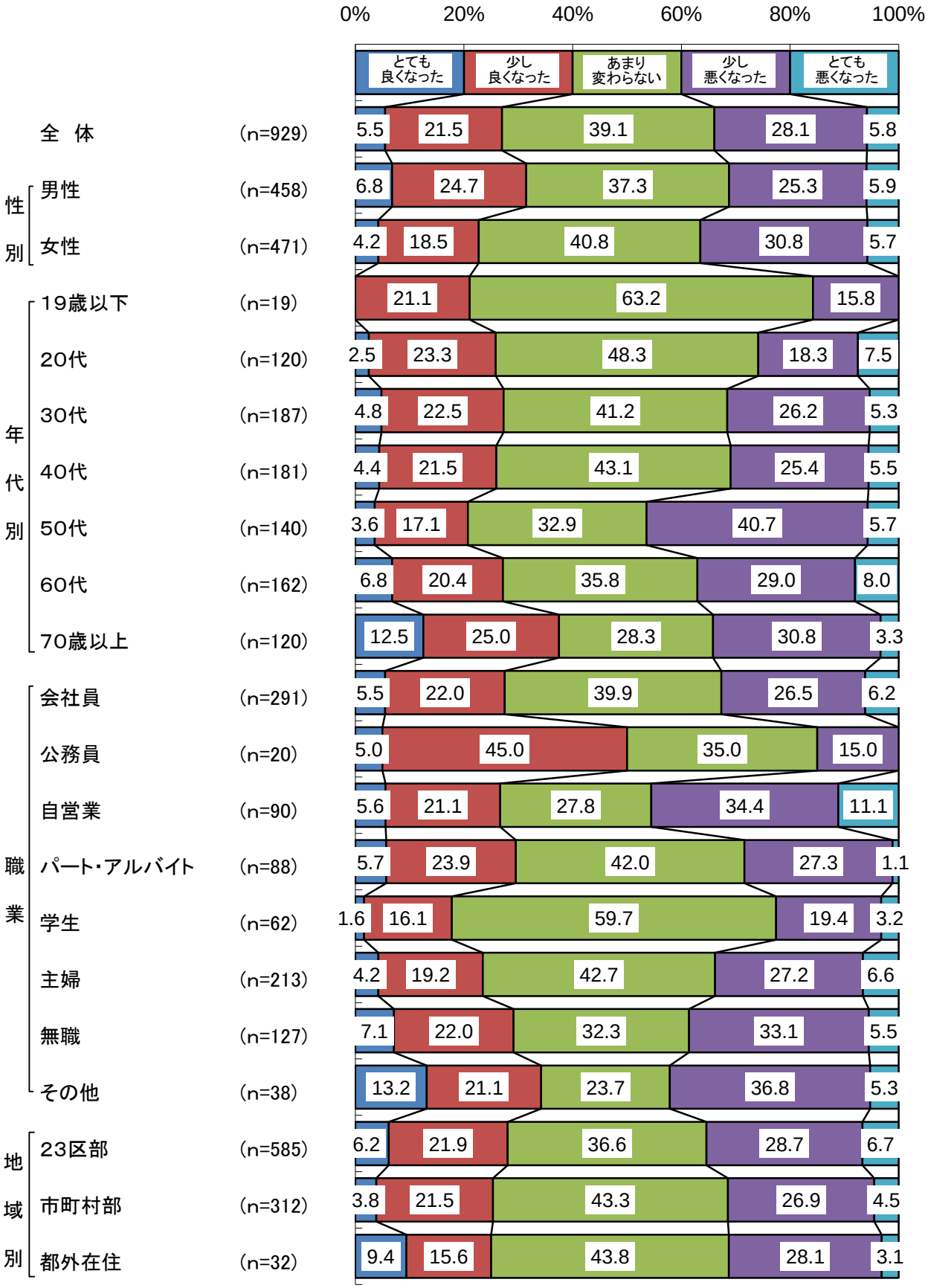
Ｑ１　現在の東京都の治安は、１０年前と比較して良くなったと思いますか。該当する項目を１つだけ選んでください。

【全 体】(n=929)



「良くなった（計）」（２７．０％）＝「とても良くなった」＋「少し良くなった」
「悪くなった（計）」（３３．９％）＝「とても悪くなった」＋「少し悪くなった」

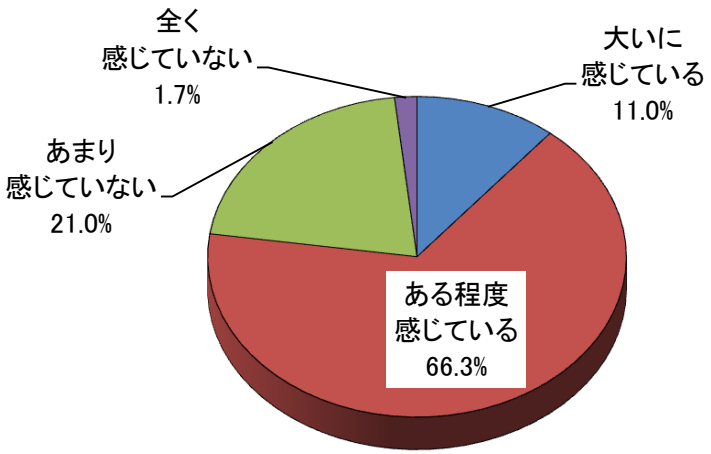
Ｑ１（属性別）　現在の東京都の治安は、１０年前と比較して良くなったと思いますか。



東京都の治安について

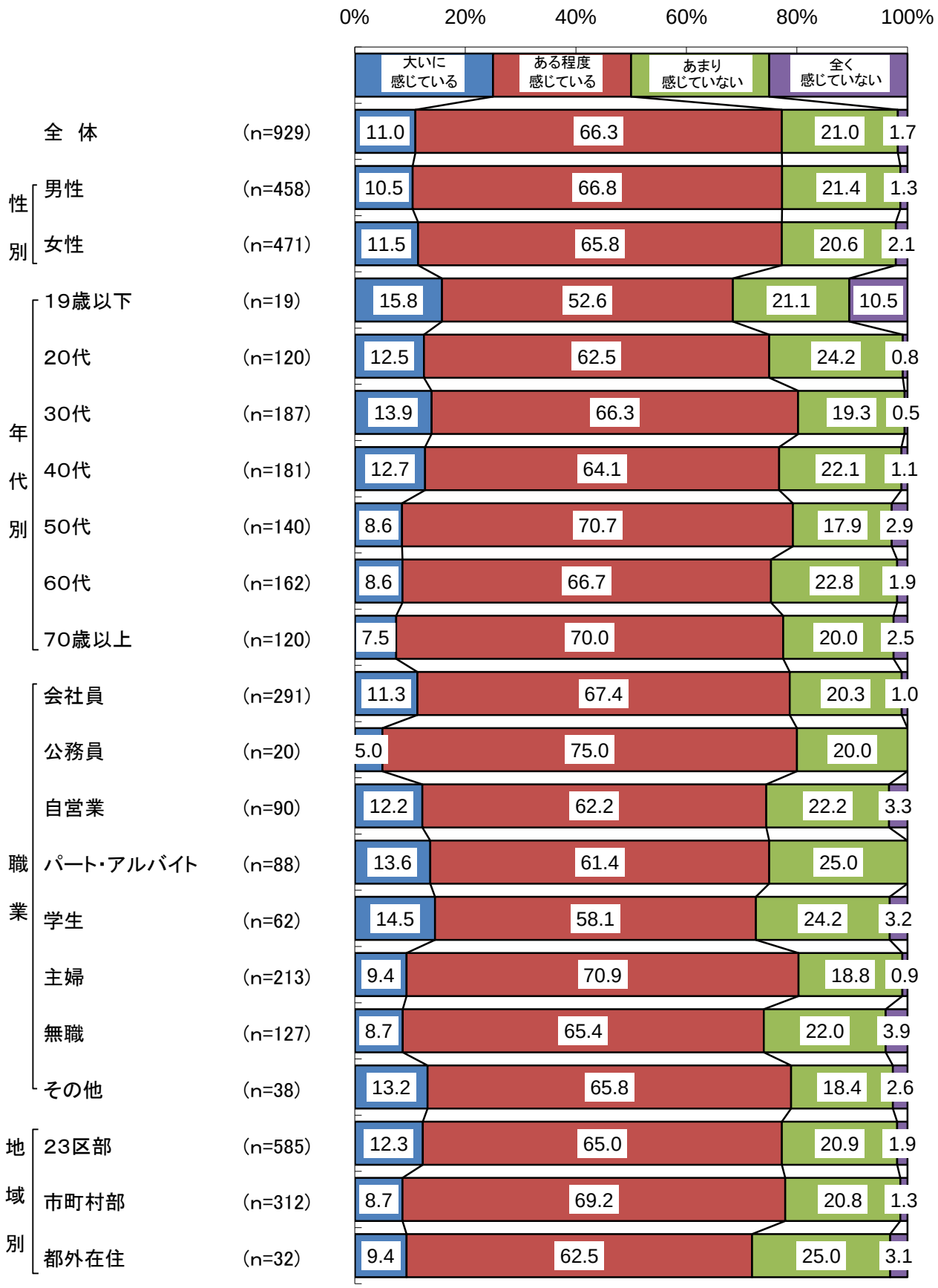
Ｑ２　日常生活において、現在又は近い将来、自分や家族が、何らかの犯罪に巻き込まれるかもしれないという不安を感じていますか。該当する項目を１つだけ選んでください。

【全 体】(n=929)



「感じている（計）」　（７７．３％）＝「大いに感じている」＋「ある程度感じている」
「感じていない（計）」（２２．７％）＝「全く感じていない」＋「あまり感じていない」

Ｑ２（属性別）　日常生活において、現在又は近い将来、自分や家族が何らかの犯罪に巻き込まれるかもしれないという不安を感じていますか。



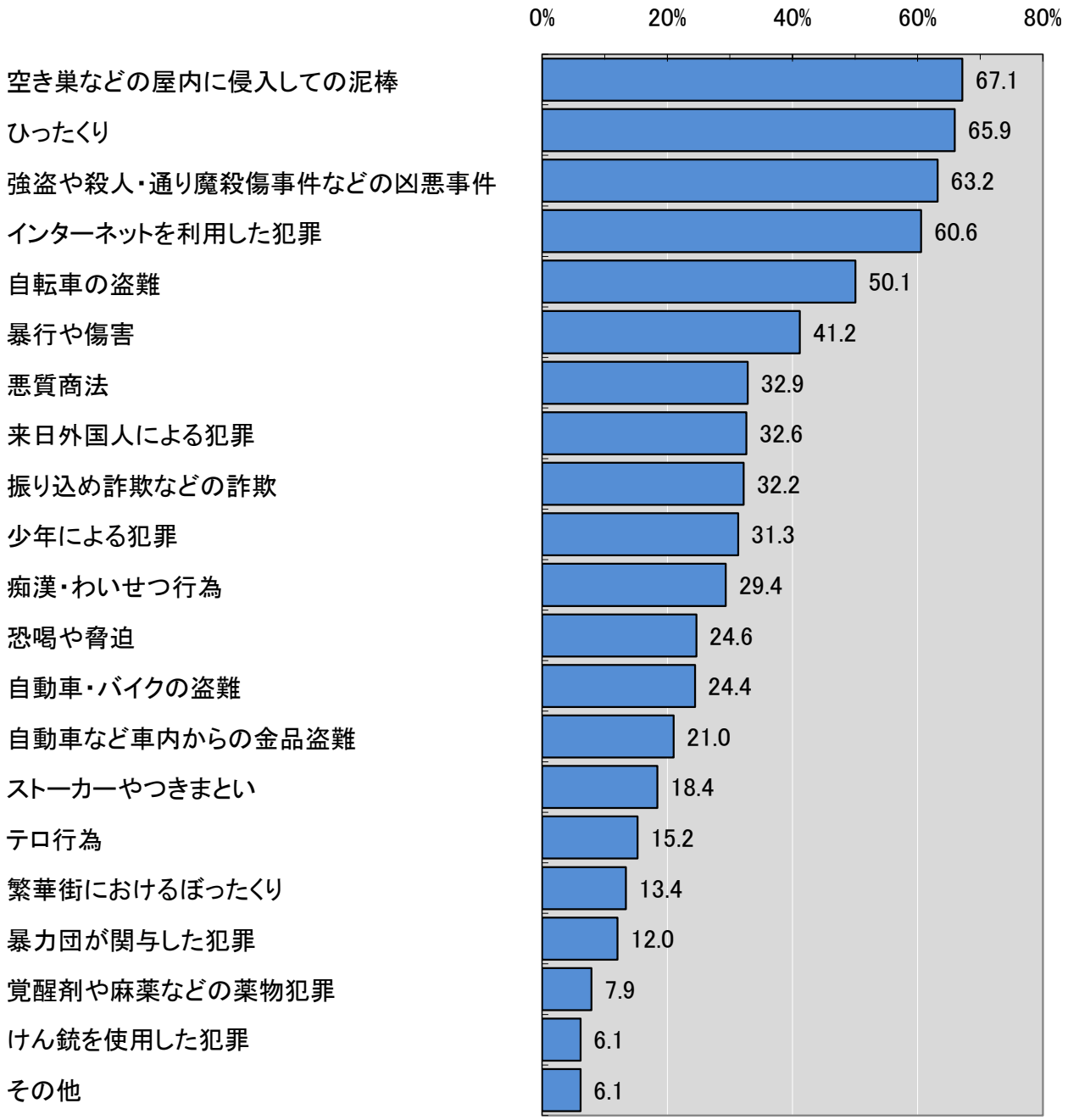
東京都の治安について

Ｑ２で「大いに感じている」、「ある程度感じている」又は「あまり感じていない」を選択した方にお尋ねしました。（９８．３％　９１３人）

Ｑ３　日常生活において、自分や家族が巻き込まれるかもしれないと思うのは、どのような犯罪ですか。

（複数選択可）

【全 体】(n=913)



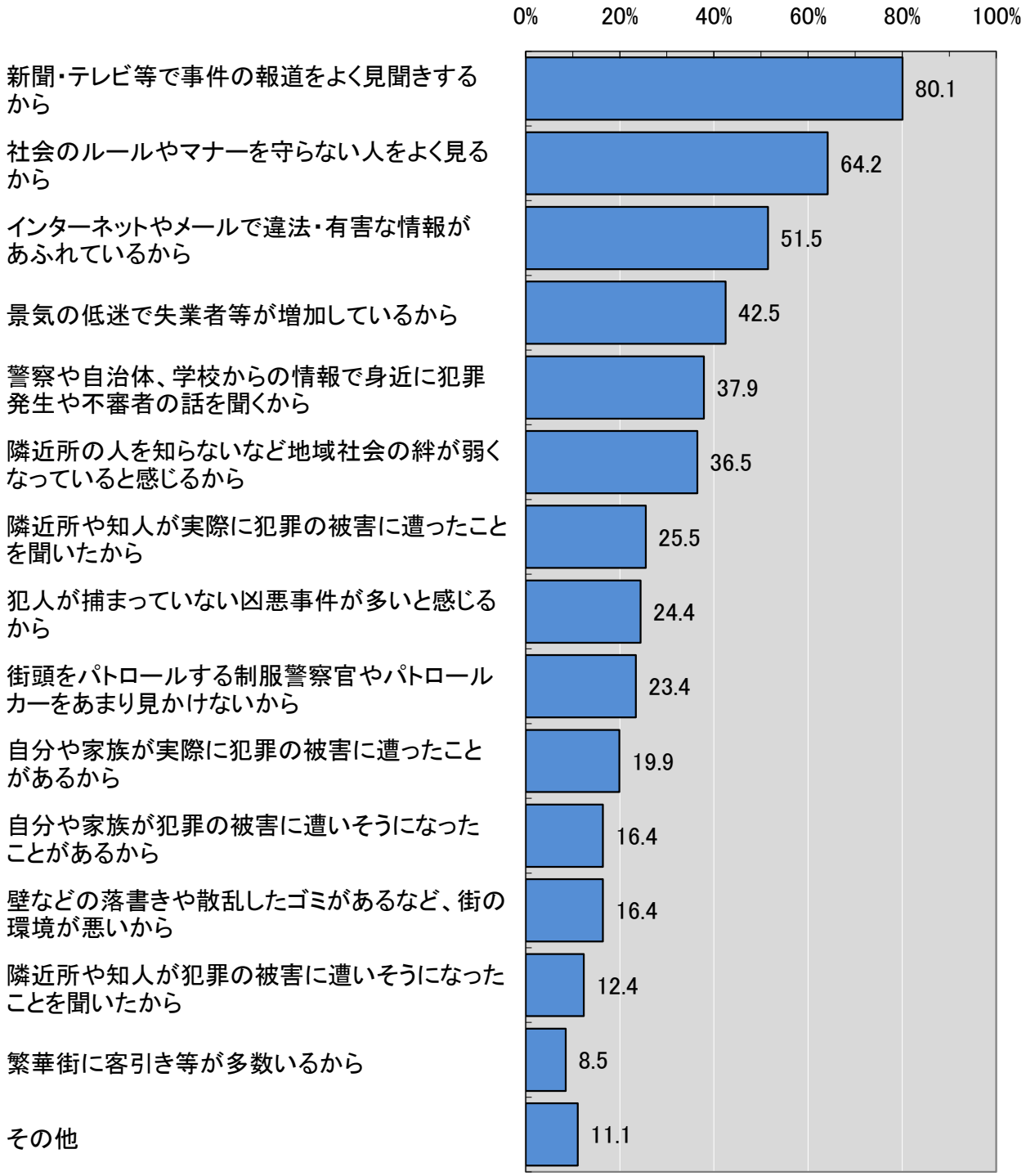
東京都の治安について

Ｑ２で「大いに感じている」、「ある程度感じている」又は「あまり感じていない」を選択した方にお尋ねしました。（９８．３％　９１３人）

Ｑ４　自分や家族が、何らかの犯罪に巻き込まれるかもしれないと思うのは、どのような理由からですか。

（複数選択可）

【全 体】(n=913)



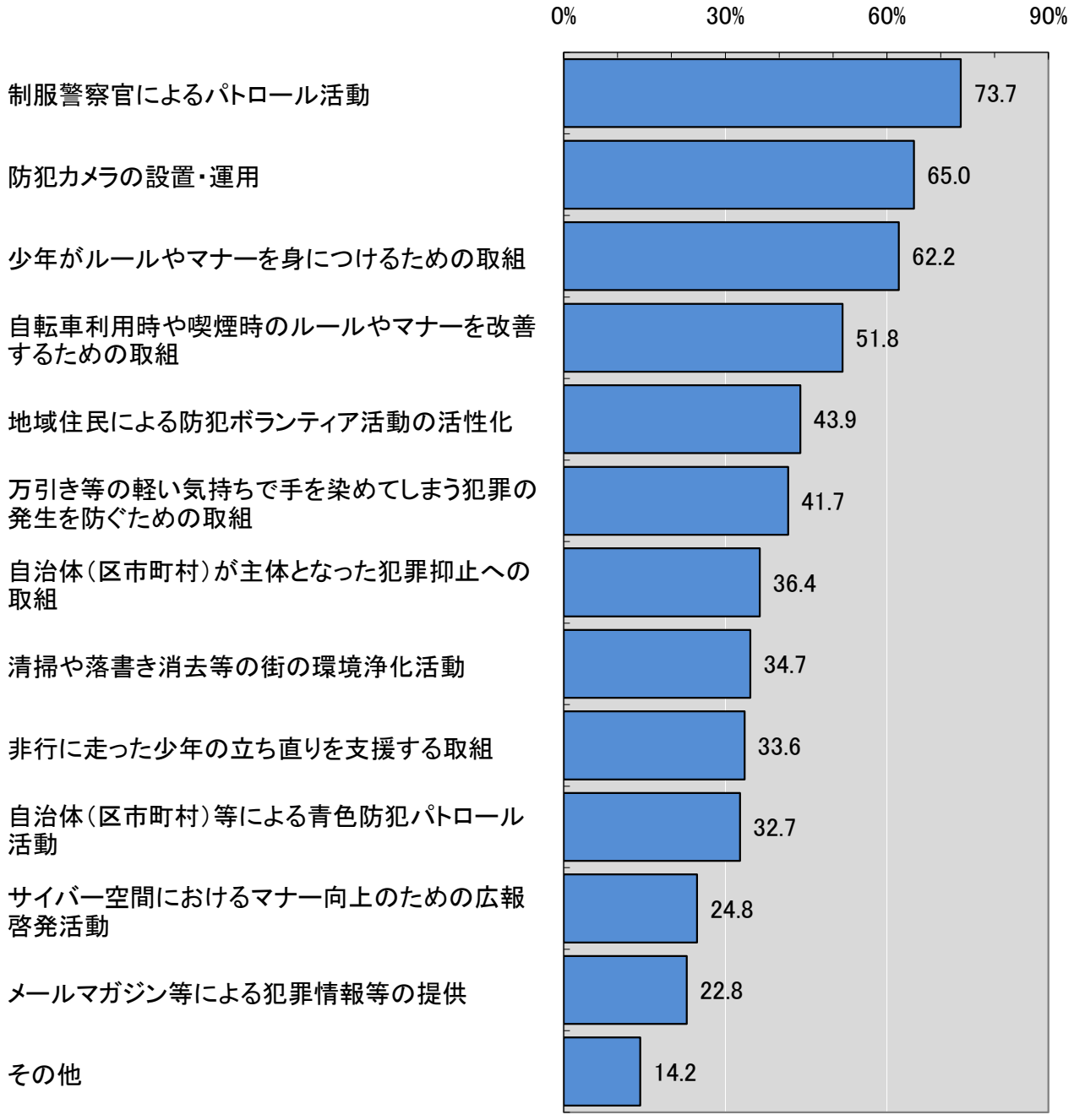
「犯罪の起きにくい社会づくり」への取組について

「安全で安心して暮らせる街、東京」の実現に向け、関係機関・団体等と連携して、「犯罪の起きにくい社会づくり」のために、各種施策を推進しています。

Ｑ５　今後、「犯罪の起きにくい社会づくり」のために、積極的に推進してほしいのはどのような取組ですか。

（複数選択可）

【全 体】(n=929)



防犯ボランティア活動について

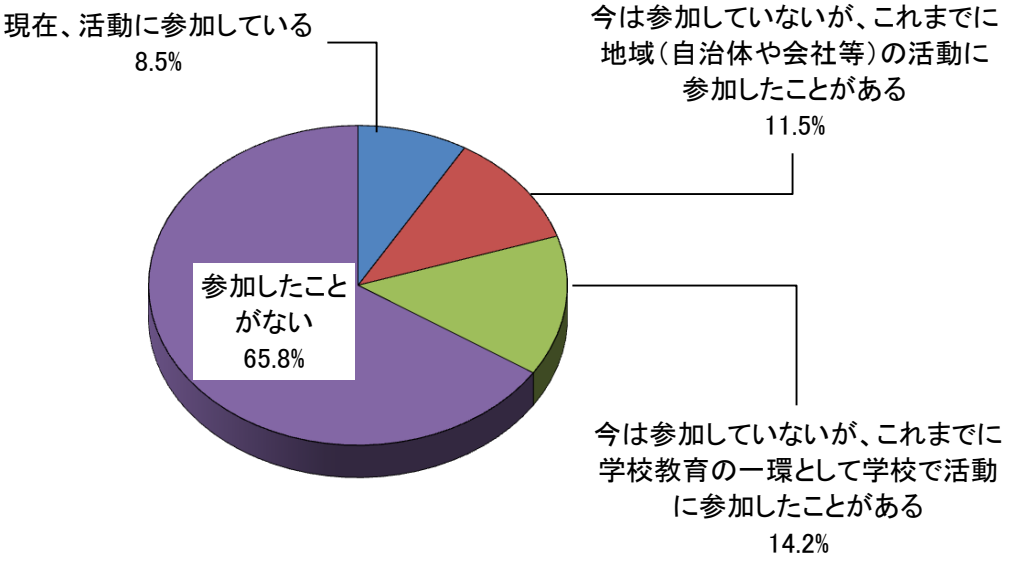
現在、都内には３，８００を超える自主防犯ボランティア組織が結成されており、１５万人を超える多くの方々が、地域の防犯のために、パトロール活動、各種防犯キャンペーンや環境浄化活動などの活動をしています。

警視庁では、自治体、自治会、事業者及び地域の方々等と力を合わせ、地域に根ざした防犯ボランティア活動の活性化に取り組んでおります。

Ｑ６　今までに、防犯ボランティア活動に参加したことがありますか。該当する項目を１つだけ選んでください。

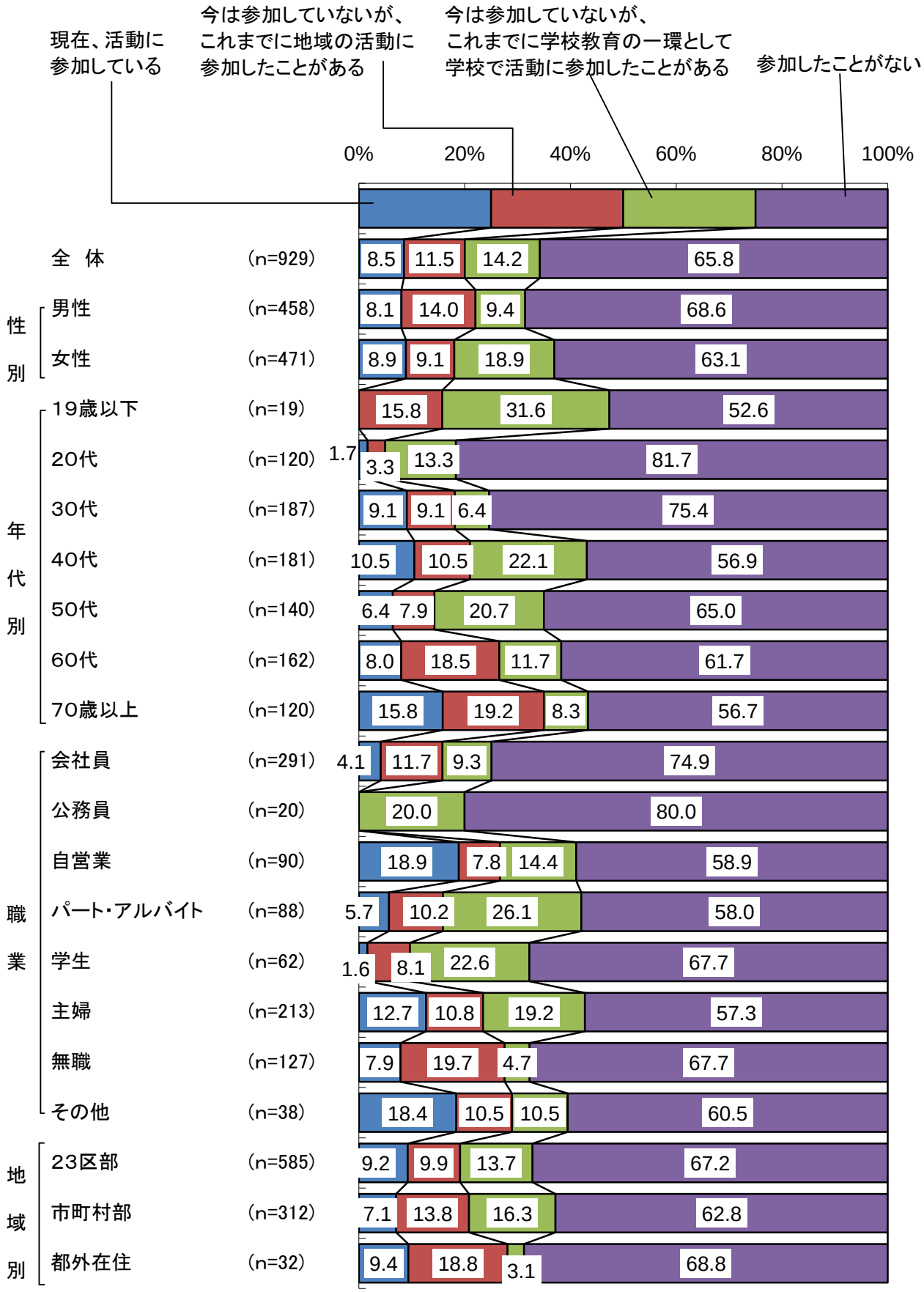
※　地域（自治体や会社等）と学校の活動の両方に参加したことがある方は、主なもの１つを選んでください。

【全 体】(n=929)



「参加したことがある（計）」（３４．２％）
＝「現在、活動に参加している」
＋「今は参加していないが、これまでに地域の活動に参加したこがある」
＋「今は参加していないが、これまでに学校教育の一環として学校で活動に参加したことがある」

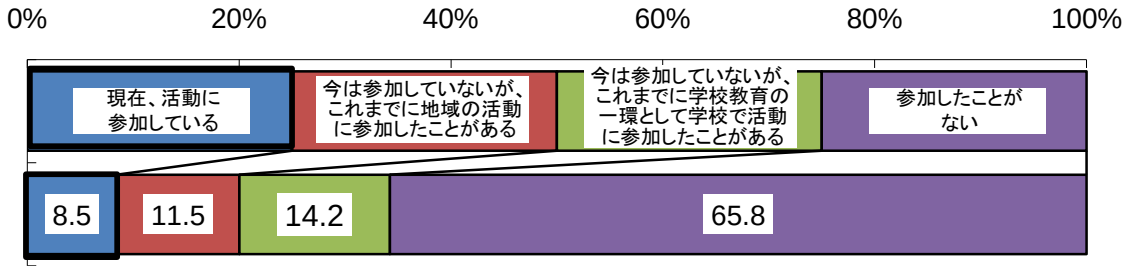
Ｑ６（属性別）今までに、防犯ボランティア活動に参加したことがありますか。



防犯ボランティア活動について

Ｑ６で「現在、活動に参加している」を選択した方にお尋ねしました。

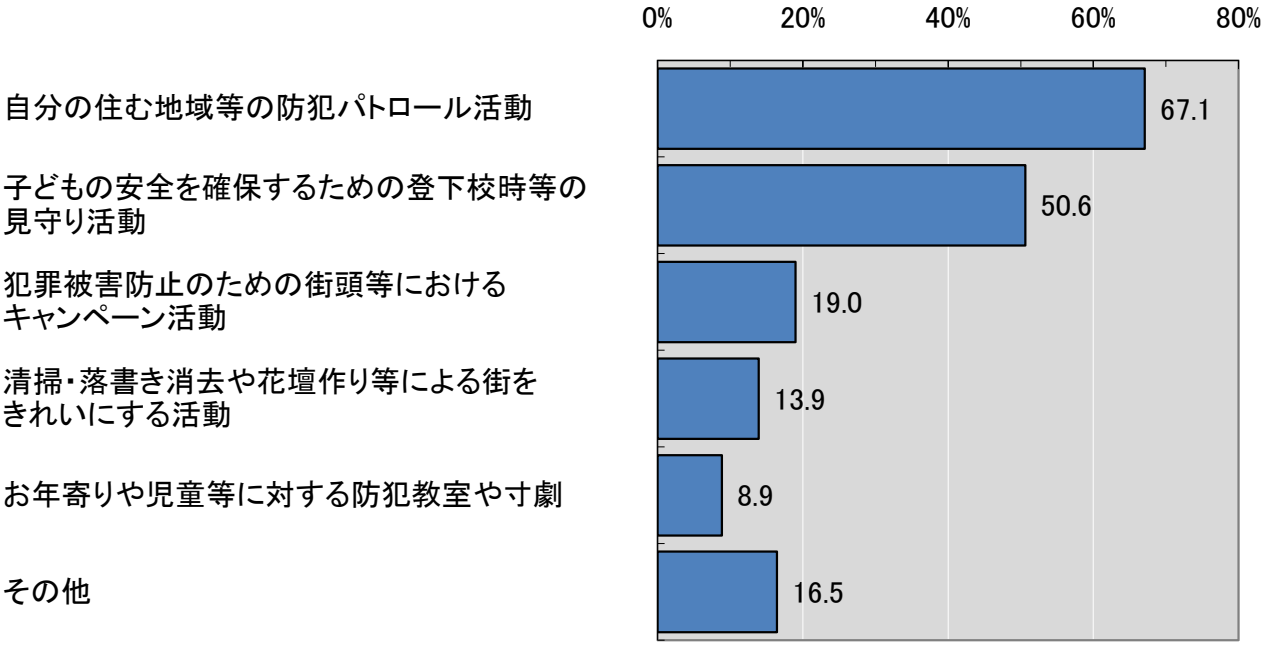
【全 体】(n=929)



８．５％　７９人

Ｑ７　現在、参加している防犯ボランティア活動は、どのような活動ですか。
（複数選択可）

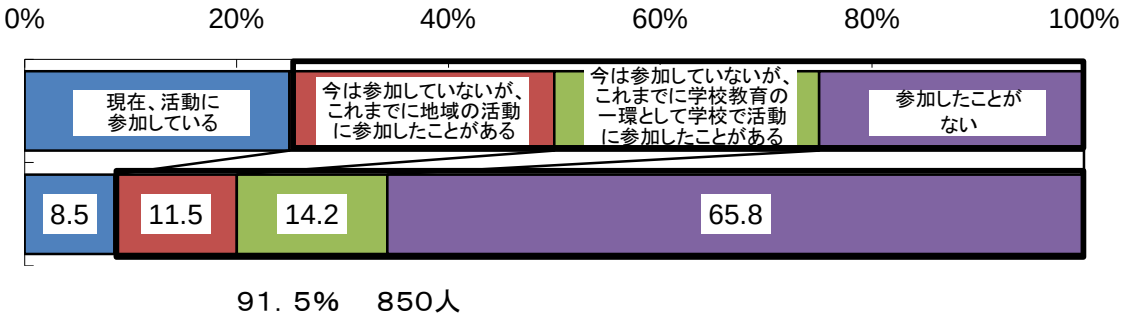
【全 体】(n=79)



防犯ボランティア活動について

Ｑ６で「現在、活動に参加している」以外を選択した方にお尋ねしました。

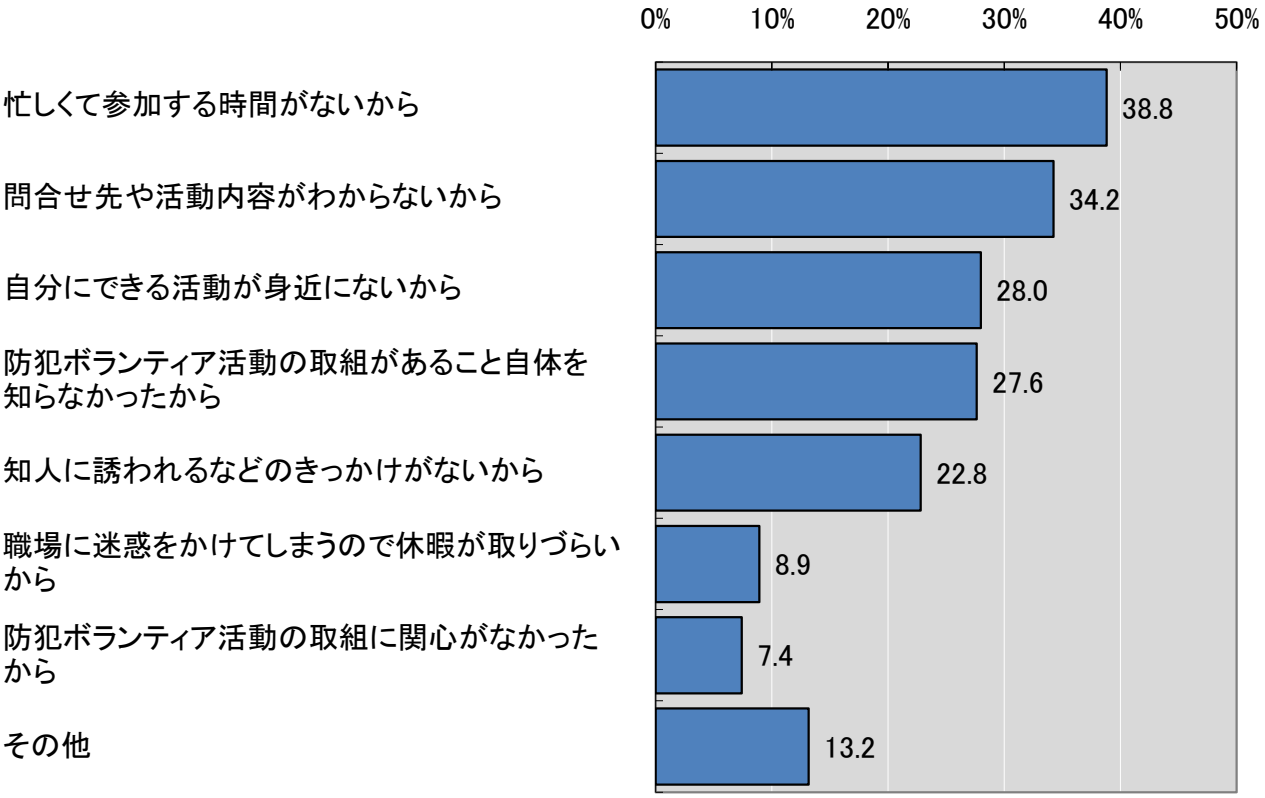
【全 体】(n=929)



91．5%　850人

Ｑ８　現在、防犯ボランティア活動に参加していない理由は、どのような理由からですか。
（複数選択可）

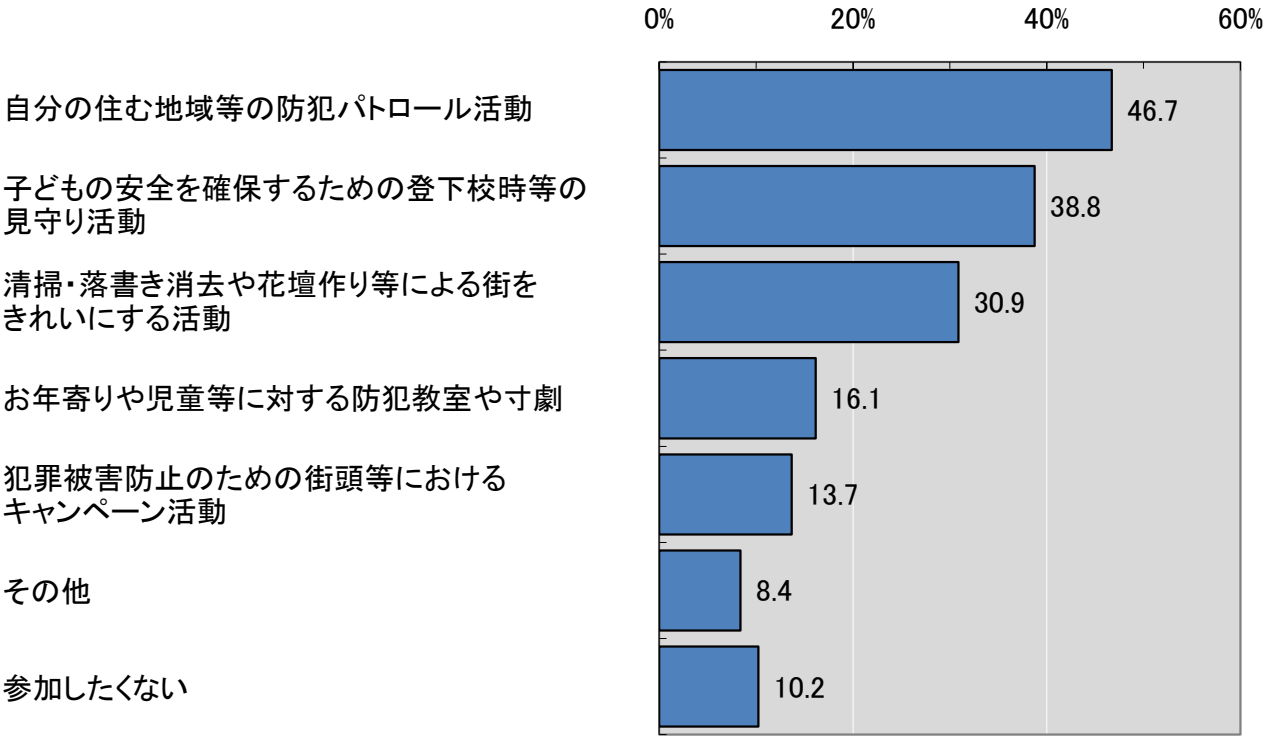
【全 体】(n=850)



防犯ボランティア活動について

Ｑ９　今後、どのような防犯ボランティア活動に参加してみたいですか。
（複数選択可）

【全 体】(n=929)



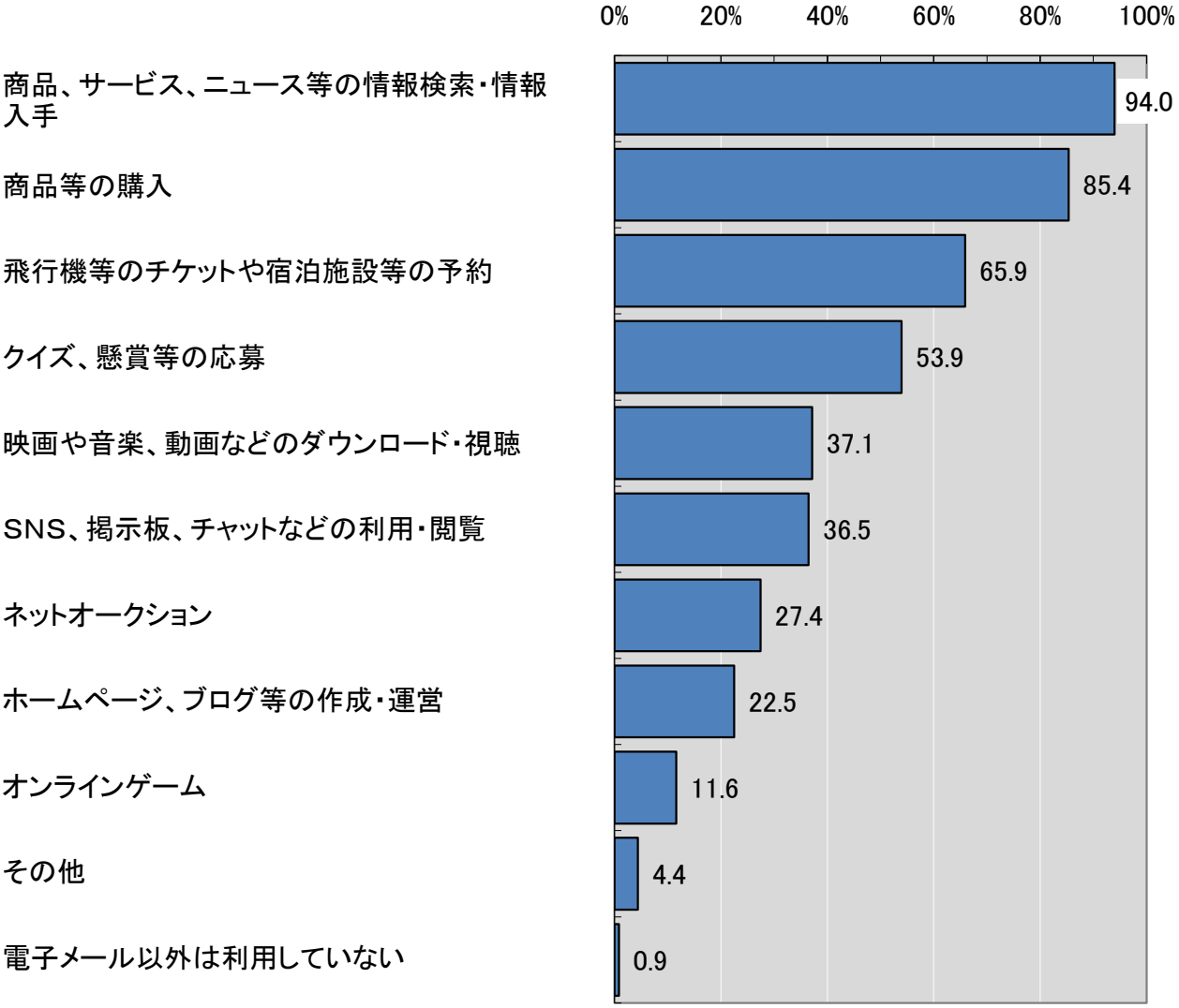
サイバー空間の安全について

インターネットの世界はあたかも治外法権という錯覚を引き起こし、サイバー犯罪の発生を助長するとともに、サイバー空間におけるモラルを悪化させているといえます。このようなサイバー空間における規範意識の低下は、現実空間における規範意識の低下や治安の悪化につながりかねません。

警視庁では、安全で安心なサイバー空間の確保のために、様々な取組を行っています。

Ｑ１０　電子メール以外で、どのようなインターネット上のサービスを利用していますか。
（複数選択可）

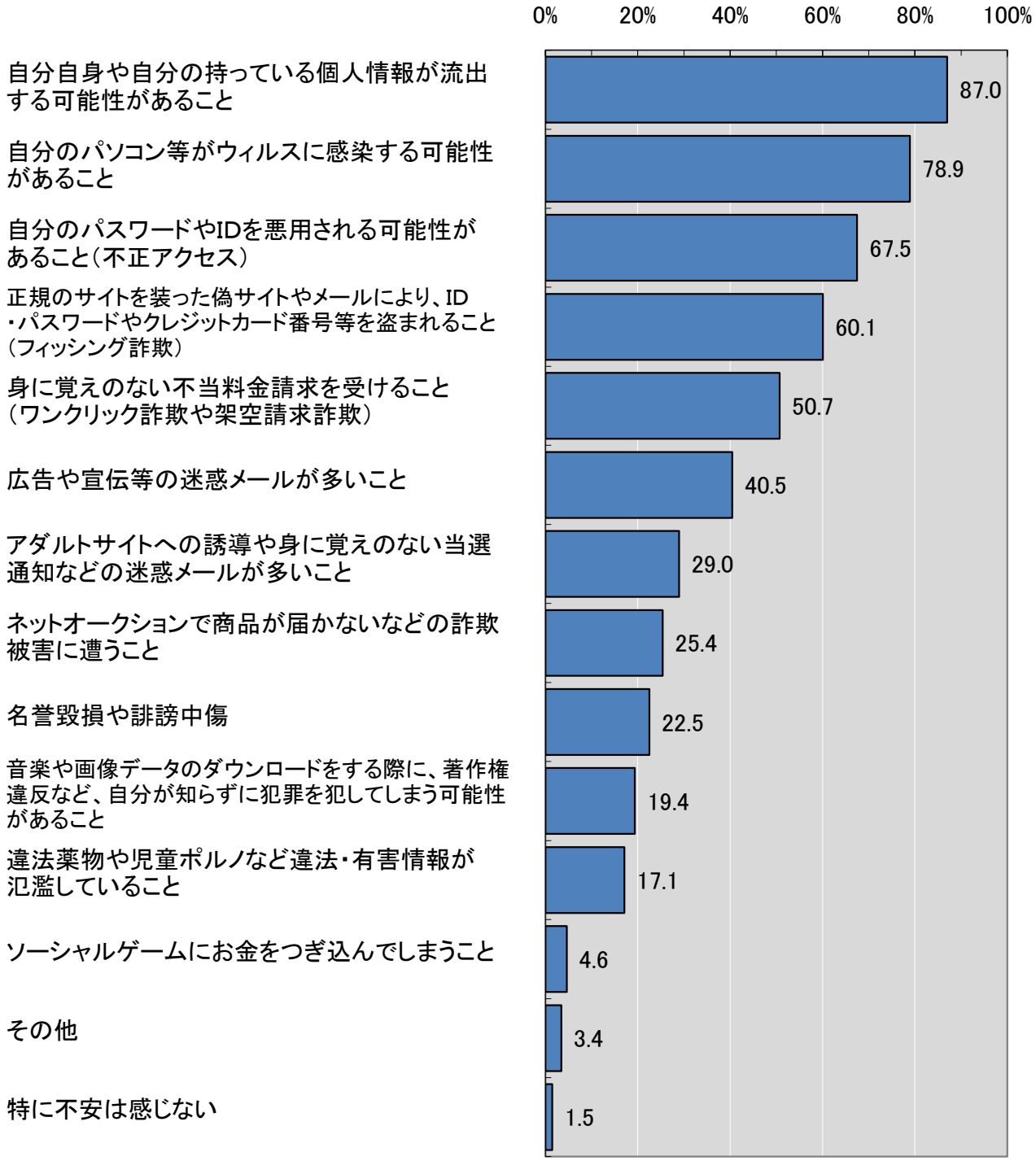
【全 体】(n=929)



サイバー空間の安全について

Ｑ１１　インターネットを利用していて、どのようなことに不安を感じますか。
（複数選択可）

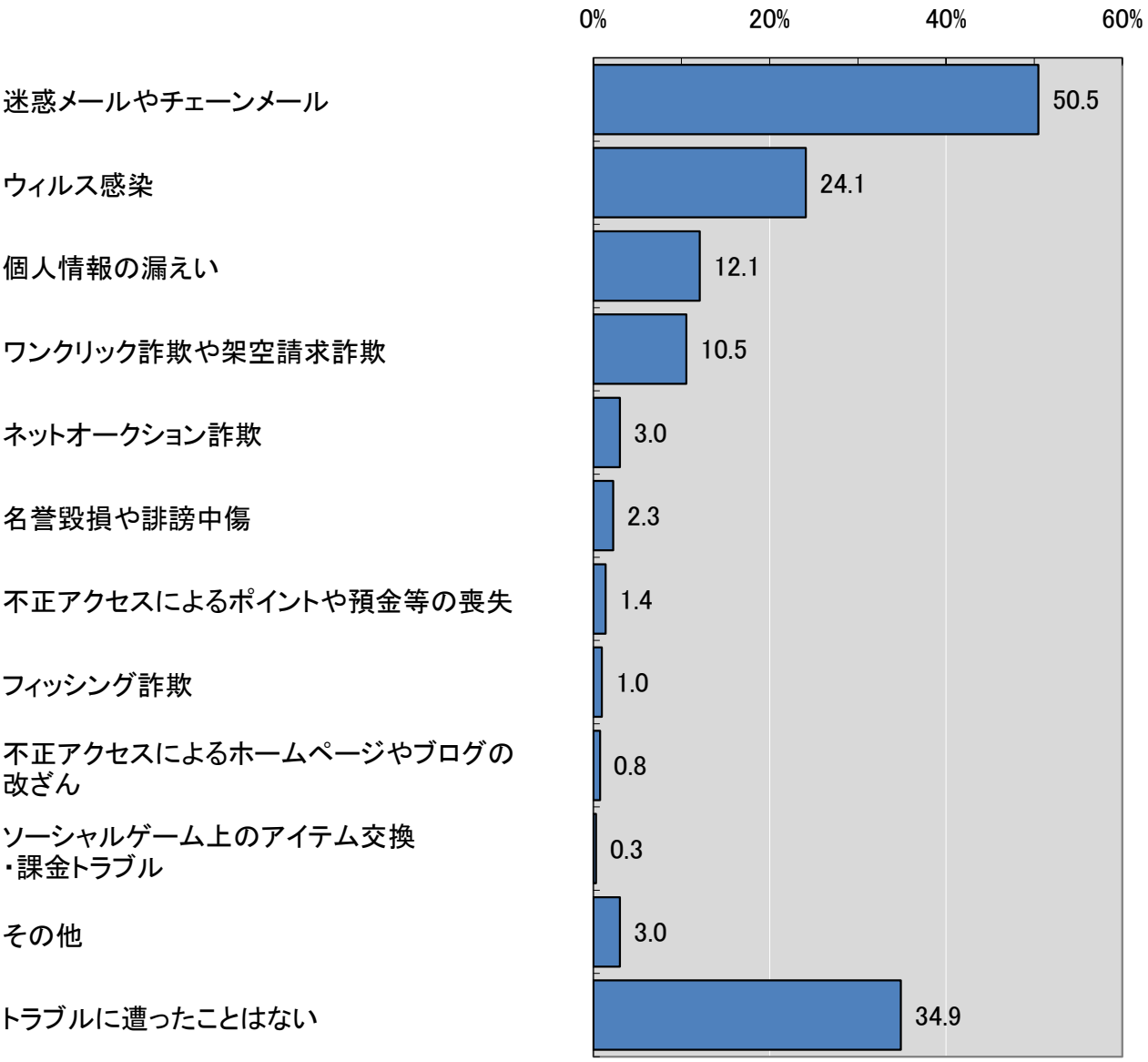
【全 体】(n=929)



サイバー空間の安全について

Ｑ１２　インターネット上で、どのようなトラブルに遭ったことがありますか。
（複数選択可）

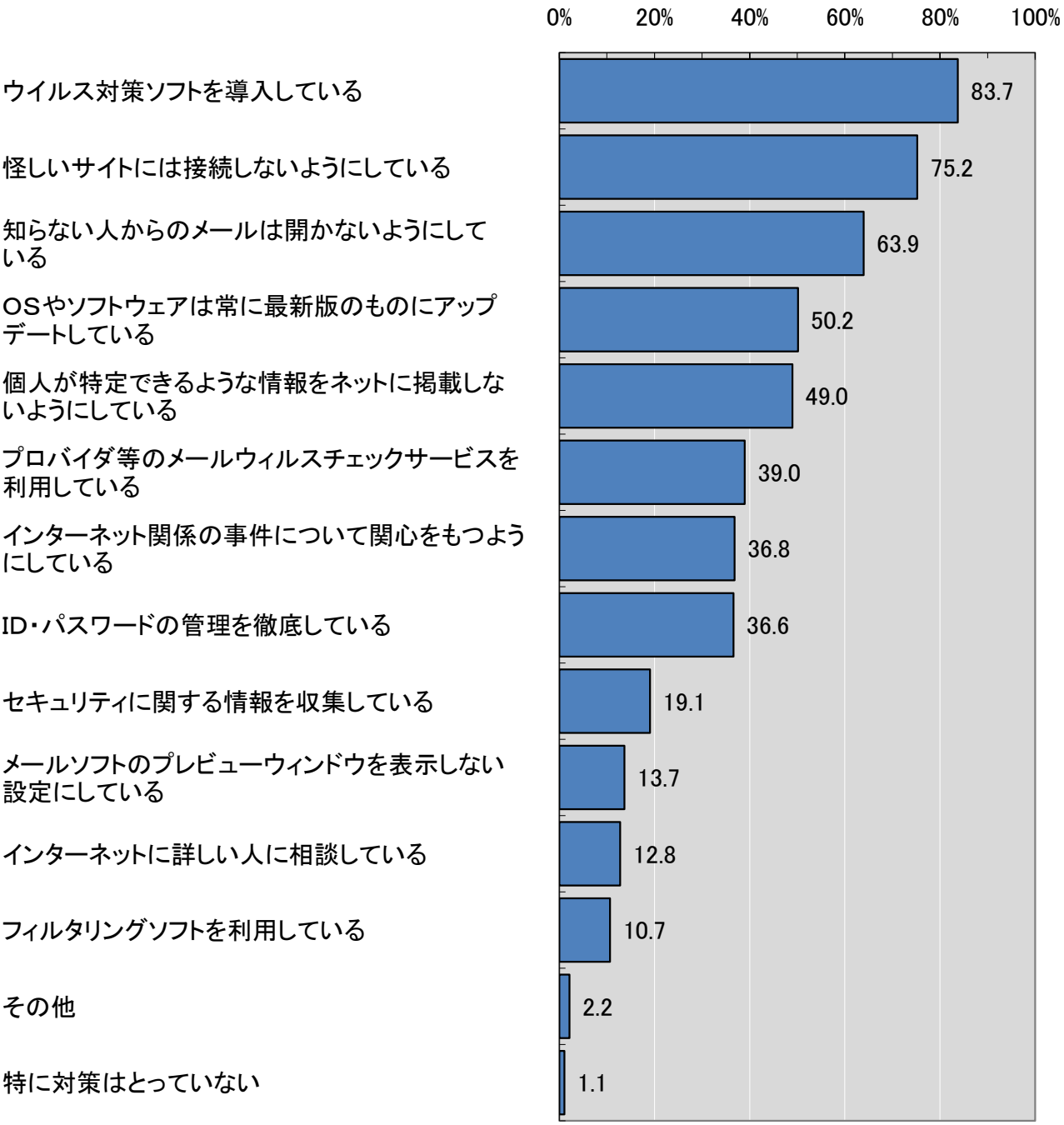
【全 体】(n=929)



サイバー空間の安全について

Ｑ１３　インターネットを利用した犯罪の被害に遭わないために、どのような対策を取っていますか。（複数選択可）

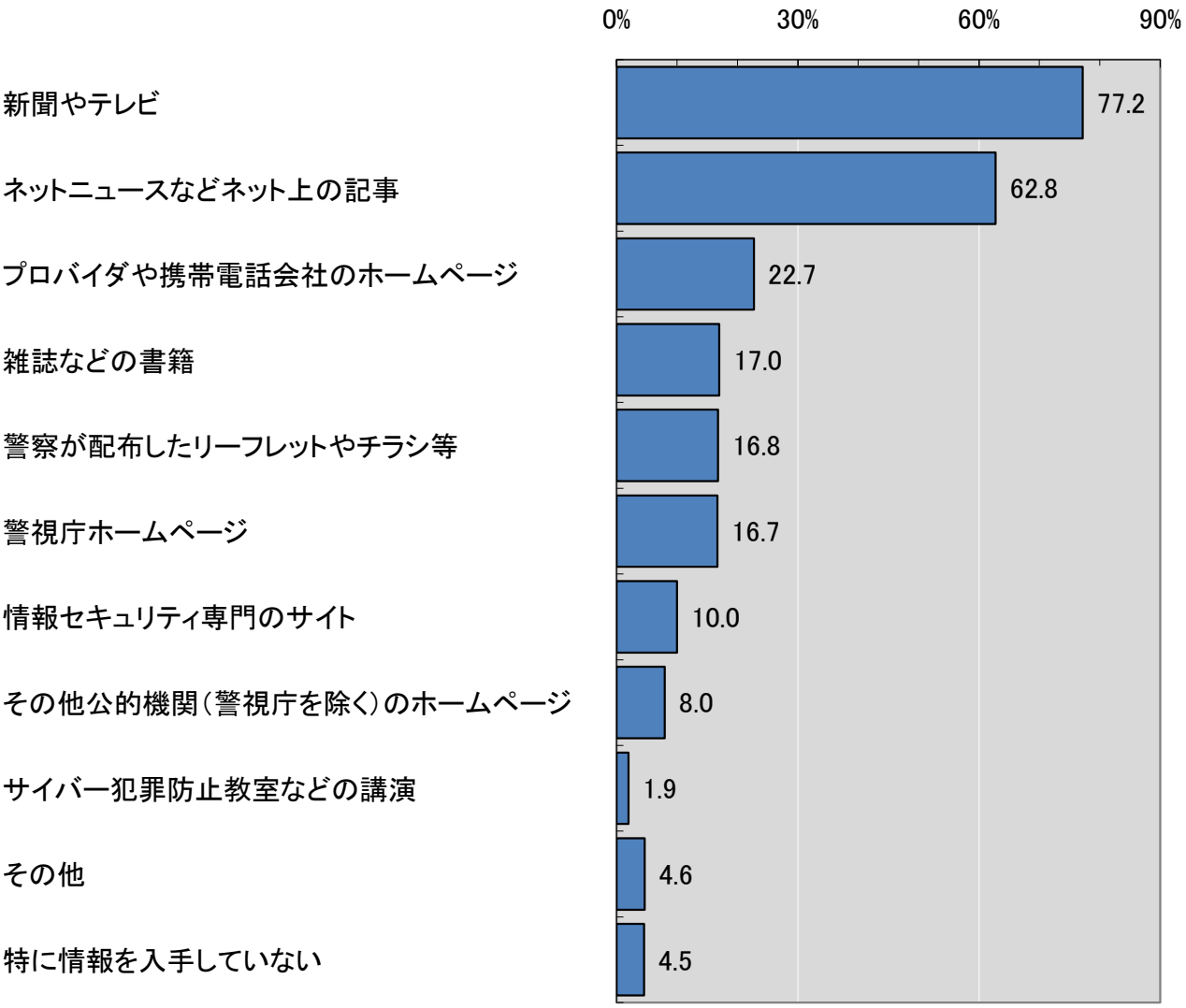
【全 体】(n=929)



サイバー空間の安全について

Ｑ１４　サイバー犯罪や情報セキュリティに関する情報を、どこで入手していますか。
（複数選択可）

【全 体】(n=929)



薬物による健康被害事案の防止について

近年「合法ハーブ」、「お香」、「アロマ」等と称して販売されている商品の中には、法令の規制を逃れるため、法令で販売が禁止されている薬物の成分を微妙に変えた商品が多数あります。これらの商品を摂取したことにより、意識障害、嘔吐、痙攣、呼吸困難等の健康被害を訴える人が多数出ているほか、死に至ったケースもあります。

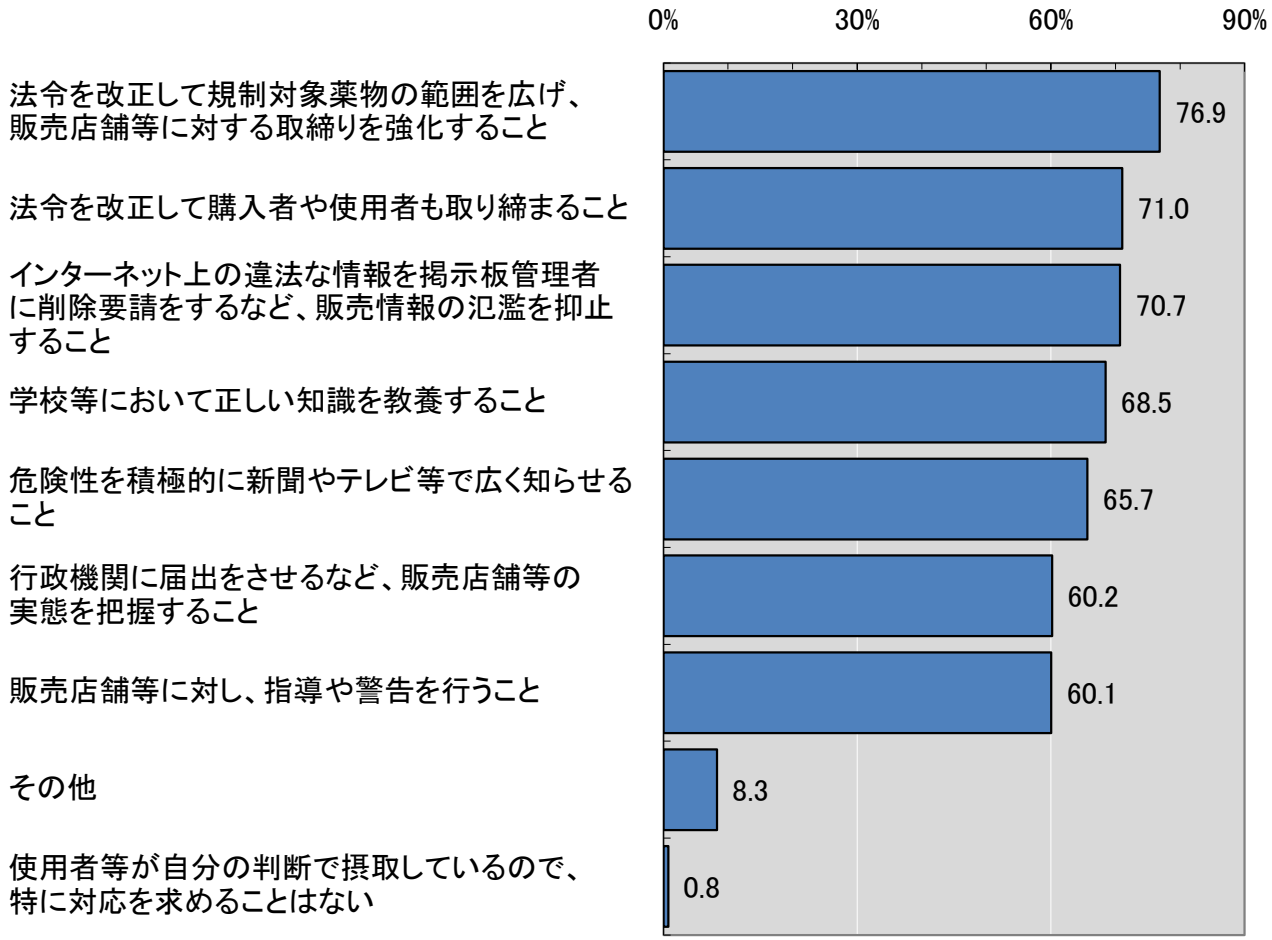
また、そのような商品を摂取して自動車を運転したことにより、意識障害を起こし、罪のない人の命を奪ってしまった事件も発生しています。

このような商品は、繁華街等の販売店、自動販売機やインターネット等を通じて、誰でも簡単に入手することができる現状にあります。

Ｑ１５　このような薬物による健康被害事案の発生を防止するため、今後、どのような対応を求めますか。

（複数選択可）

【全 体】(n=929)

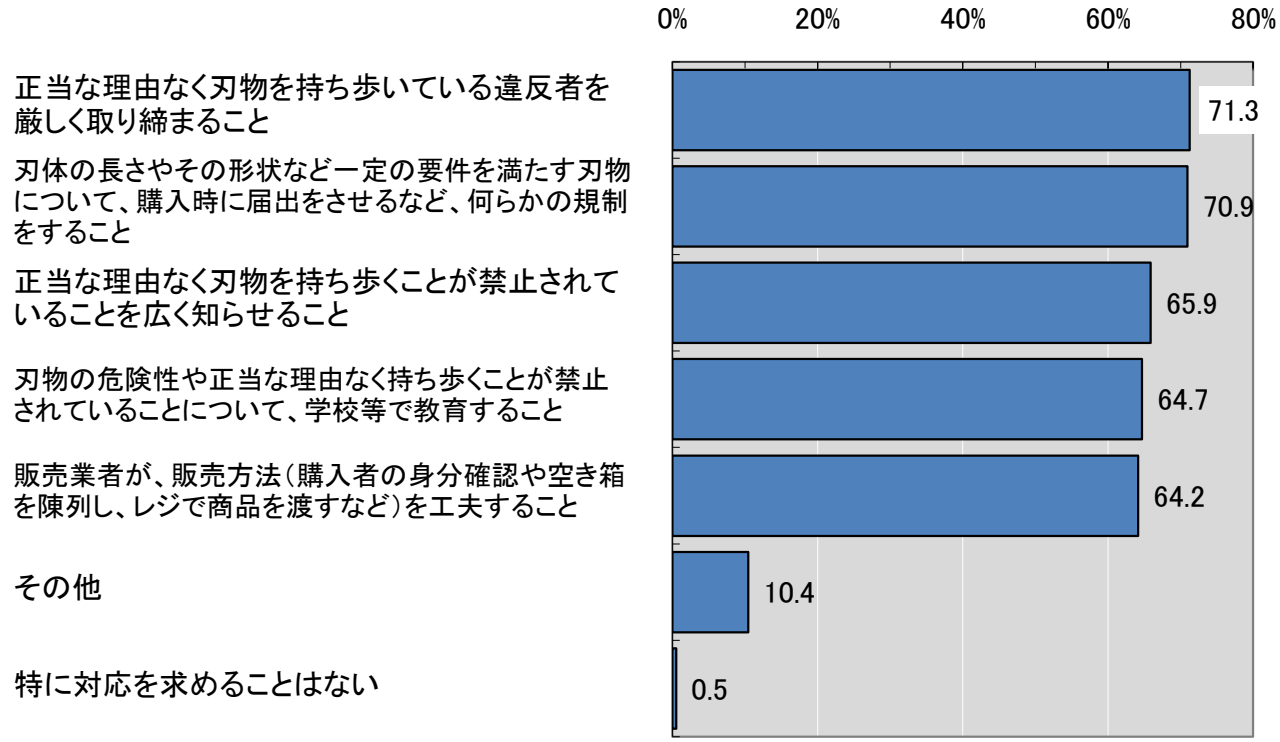


路上等における刃物を使用した犯罪の防止について

路上において、刃物を突発的に使用し、犯行に及ぶ殺傷事件の発生が見受けられます。
料理用の包丁や登山用のサバイバルナイフなどの刃物は、正当な理由なく（護身用など）持ち歩くことは禁止されていますが、インターネットや街中の販売店舗等で誰でも手に入れることができます。

Ｑ１６　路上等における刃物を使用した犯罪を防止するために、どのような対応を求めますか。
（複数選択可）

【全 体】(n=929)

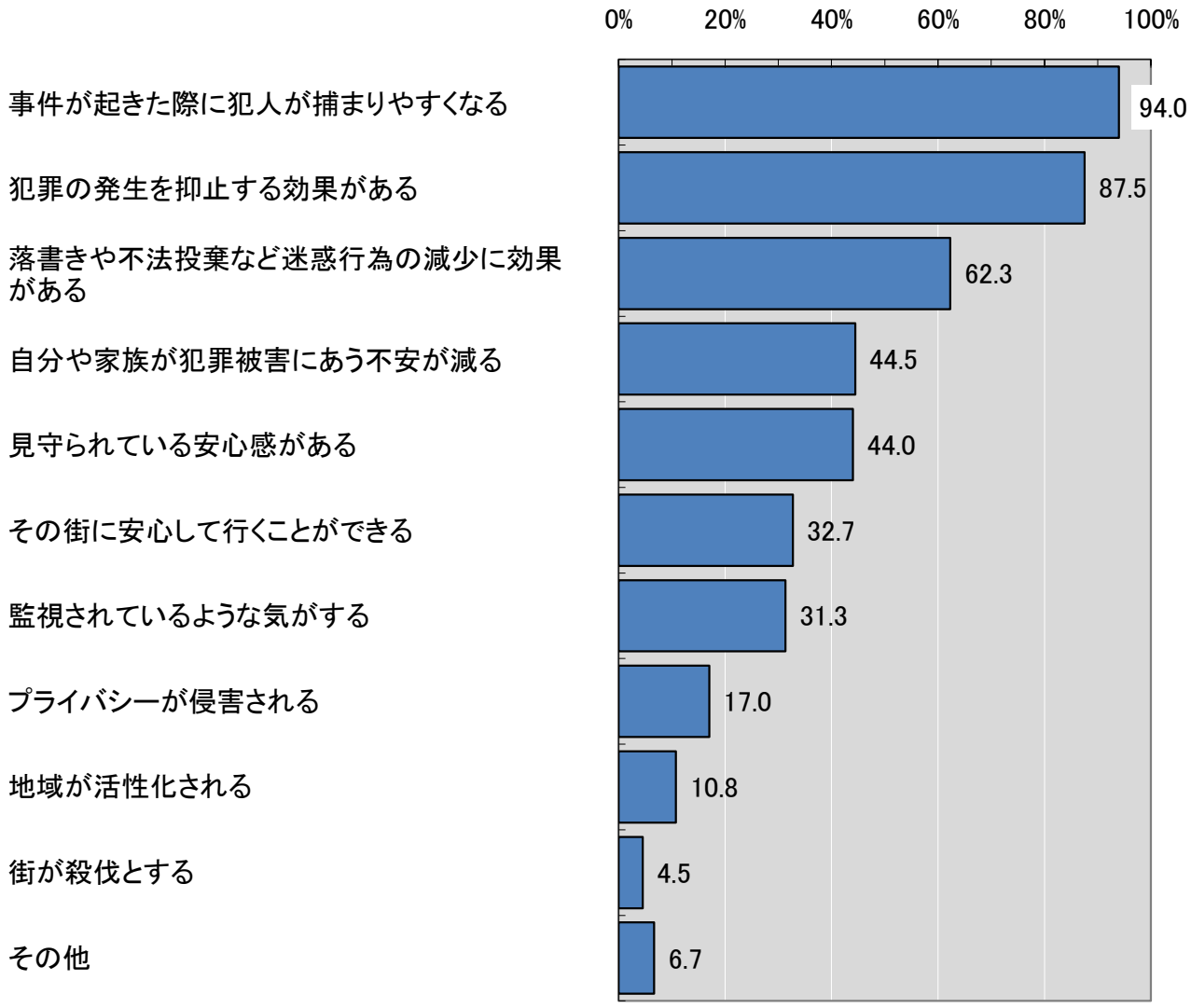


防犯カメラについて

平成２３年１１月に東京都がとりまとめた「都民生活に関する世論調査」の中で、「防犯効果が高いと思う行政の取組や地域活動」について、約６４パーセントの人が、「防犯カメラの設置」を支持しており、警視庁においても、防犯カメラは都内の治安向上を図る上で大きな役割を果たすものと考えております。

Ｑ１７　防犯カメラについて、どのようなイメージを持っていますか。
（複数選択可）

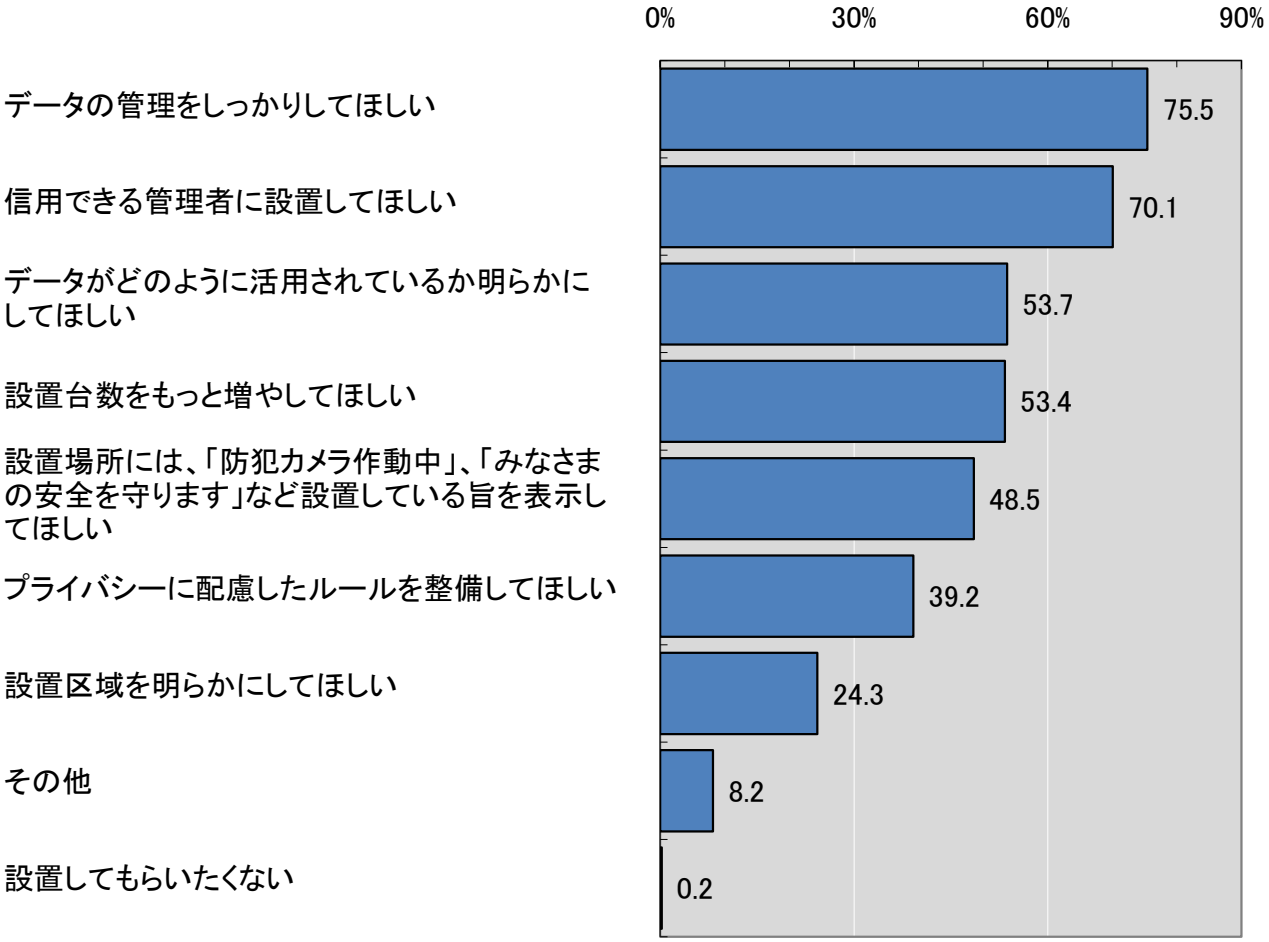
【全 体】(n=929)



防犯カメラについて

Ｑ１８　防犯カメラの設置について、どのようなご意見をお持ちですか。
（複数選択可）

【全 体】(n=929)

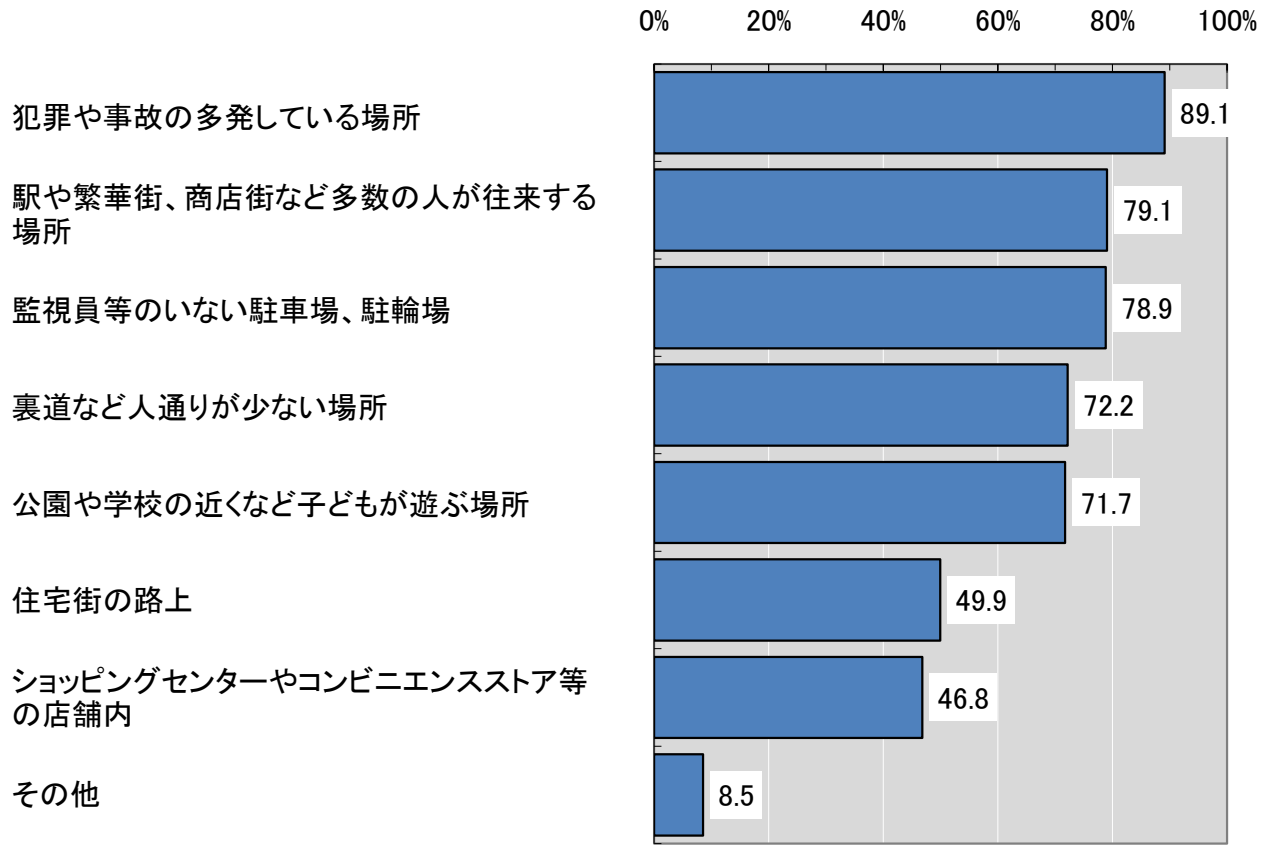


防犯カメラについて

Ｑ１８で「設置してもらいたくない」以外を選択した方にお尋ねしました。
（９９．８％　９２７人）

Ｑ１９　防犯カメラを設置してもらいたいと思う場所は、どのような場所ですか。
（複数選択可）

【全 体】(n=927)



「安全で安心して暮らせる街、東京」への取組について

Ｑ２０　最後に、「安全で安心して暮らせる街、東京」の実現に向けて、あなたが警察に求める取組についてお聞かせください。

（記述式）

ご意見（一部抜粋）

○　防犯ボランティア活動についての意見

- 地域ごとに防犯パトロールをやっておりますが、地域の町会、自治会を形成する年代が年ごとに高くなっております。地域のイベントに若い年代の方が子供連れで参加するように警視庁の広報紙でも取り上げてもらえたらと思います。参加することで地域の方々とも顔見知りになり、子供の顔も覚えてもらえれば何かの時に役に立ちます。地域の方にも参加された方を大事にして接していただけるように指導をして欲しいと思います。（男性　70歳以上　無職）
- 巡回等して、いつも見ているというアピールが効果的だと思います。またボランティアについては、個人での参加を求めるより、企業に参加を求めるほうが働いている人にとっては良いかと思います。業務の一環になるので。（女性　20代　会社員）
- 私は医療機関に勤務していますが、安心と安全はお金では買えません。高齢者や子供たちの安全を守らないと地域社会が崩壊してしまいます。交番のおまわりさんは多忙のようですが、地域には警備会社も巡回しているし宅急便や郵便局の方々も毎日ご自宅に伺っているはず。どこで誰が何をしているのか緊急時にはどうすべきか、行政：地域住民：民間企業やボランティアが共通の課題を認識して一緒に仕事をすべきではないですか。当然医療機関もそうですが、個人情報保護法の運用規定を勘違いしている人たちが多いと思っています。みんなでやりましょうと交番のおまわりさんが動いてくれたらみんな協力してくれると思います。（男性　50代　その他）
- 治安は警察にすべて任せる訳にいかない。市民の手をもっとかりるべき。通学児童が巻き込まれる交通事故の悲惨な現場報道につけそう思う。通学路の確保は当然だが、児童が安心して通学できるよう監視するのは市民の手や目が重要な役目を発揮すると思う。警察は、多様化する業務範囲について行けないのも分かる、だからこそ市民を引っ張り出して欲しい。ボランティアに参加する機会をもたない定年退職者が自宅にこもっている世界をなくす一案として提案したい。定年退職する１年前からボランティアに強制参加する制度もいいかな。（自分の体験から）特にコチコチの真面目人間が定年到達してからスイッチが切り替わるのは難しい。（男性　60代　無職）
- 警察だけでは足りない部分は、地域住民のパトロールと連携して、未然に犯罪を防げる環境になると良いと思う。（女性　40代　主婦）
- 防犯のためのボランティア活動をもっと都民に呼び掛けるべきだと思います。おそらく、知らない人が多いのではないしょうか。フルタイムで仕事をしている人が参加しやすいようなボランティア活動があれば、よりいいと思います。（男性　30代　会社員）
- 犯罪抑止には防犯ボランティアなど地域の目にも十分助けられていますが、ボランティアでは限界があるため、凶悪犯罪なども多い以上やはりプロである警察に頼らざるを得ないと感じております。（女性　40代　主婦）

○　防犯カメラについての意見

- 朝方に、リサイクル系のゴミを無断で持ち去る人や、ポストの郵便物を覗いている人が結構いるので、住宅地には特に防犯カメラを設置して欲しいです。（女性　30代　会社員）
- 犯罪を起すことを考えているものにとっては、迷惑なものかもしれませんが、ごくごく平穏な生活を過ごしている住民にとっては安心感を与えるものだと感じています。個人情報の保護を理由とした防犯カメラの設置に反対を訴えるものもいると思いますが、防犯カメラがあることにより安心感を覚える人々が多くいるということを考慮いただき、積極的な設置を推進していただきたいと考えます。（男性　20代　公務員）
- プライバシーの問題について今後の検討が必要ですが、今回の渋谷の事件やオウム真理教高橋容疑者逮捕に絶大な効果をもたらすことが出来たことは間違いのない事実であり、高く評価すべきです。この事件発生から短時間に犯人逮捕出来た事は今後の事件発生の抑止にも繋がり、安全

で安心して暮らせる街、東京の実現に必要であると痛切に感じます。（男性　50代　自営業）

・　防犯カメラは、犯罪の抑止効果が大きいと思うので、警察や自治体だけでなく、自治会や地域団体等でも設置がしやすいよう、補助金やプライバシーポリシー基準の整備を行ってもらいたい。
（男性　40代　会社員）

・　防犯カメラが無秩序に設置され、プライバシーのない、監視社会につながってしまうことは望ましくありません。監視カメラで蓄積された情報は、誰がどこでどのように扱い、保存・管理しているか、不明なことが多く心配です。監視カメラ設置のルールづくりも必要だと思います。
（男性　30代　会社員）

・　防犯カメラについては、防犯や、犯人検挙に役立っていると思いますが、街中あちらこちらにカメラがある、という状況は監視されているようで、あまりよい気分ではありません。数が多くなると、その運用や管理についても、きちんとしたものが徹底されるか不安です。繁華街や犯罪の多い場所など、ある程度絞ったものが望ましいと考えます。（女性　40代　主婦）

○　キャンペーン、講話等についての意見

・　警察が犯罪撲滅のために行っているキャンペーンや取組などを知る機会も少ないですし、普通に暮らしているだけでは警察とのかかわりがどんどん希薄になりつつあると思います。今後自分の住む街で安心に暮らしていくためには、小さな犯罪も見逃さずに無くして行くことが大切だと思いますし、警察だけでなく地域の人のかかわりも大切だと思いますので、地元のお祭りやイベントの時に防犯コーナーを設置して多くの人に見てもらったり、子供向けのイベントなどを開催するなどの地元に根差した活動をもっと積極的に行って欲しいと思います。
（女性　50代　パート・アルバイト）

・　繁華街やショッピングセンターなどの人の集まるところで、犯罪に関するデモンストレーションのようなものをやってほしい。特に、犯罪に巻き込まれたときにどうすればいいのかなど、対処の仕方をレクチャーしてほしい。（女性　20代　パート・アルバイト）

・　東京の場合は、「隣は何をする人ぞ」が実態であると感じます。特にマンションの賃貸をした場合、管理会社の人は「引っ越しの挨拶はしないほうがよい」との昔では、あり得ないマナーを提示することが普通にまかり通っているのも現実であるとはっきり言えます。プライバシーの充実を図っているようにも思われるが、かえって犯罪を見逃し皆の無責任社会を増長させていく根本原因ではないかと懸念しています。警察は、昔のように住民と顔が向き合えるようにし、マンションのホールを活用し、講習会、広報展示をオーナーに強く求め、互いに協力出来るコミュニティーの基を築かれるべきだと思います。（男性　60代　無職）

・　パトロールをしたり監視カメラを設置することはもちろん犯罪抑止につながると思うが、都民一人一人が身近に危険が潜んでいることを自覚し、軽率な行動は取らないことが犯罪に巻き込まれないためには重要である。そのために警察は講習会などを行う機会を増やし、都民に自覚を持たせて欲しい。ただそういった講習会に参加する人は元から意識が高い人が多いと思うので、学校や企業などと連携して、全ての人が治安について考えられるような場を設けて欲しい。
（女性　20代　学生）

・　私を含めて一般庶民は世の中でどのような犯罪が実際起こっているか、テレビ、新聞などでしか知る機会はないと思います。そこにとりあげられる犯罪はきっと氷山の一角でしょう。警察官の方々は日夜それらと直面されていることと思います。子供が幼稚園や小学校の時、警察署の方がお見えになり、防犯教室のようなものを受けた記憶があります。車のナンバーを覚える時も下の桁が大切？とか聞いた覚えがあります。このように一般人は知らなくてもちょっとしたことを警察の方でどんどん情報公開していただき、庶民として知識を得たいと思います。自治体と協力して防犯教室、講座とかされてもいいと思います。（女性　50代　会社員）

・　青少年犯罪防止の為に、親を啓蒙する取組み（親が子供に犯罪防止教育をする事が第一）
（女性　50代　その他）

・　幼稚園や小学校・中学校でもっと頻繁に犯罪抑止のための教室などを行ってもいいのではないでしょうか。特に実際働いてらっしゃる警察官の方々の話を聞けることはとてもいいことだと思いますし、自分の家の近くの交番の警察官の方の顔を覚えることで安心感も増すと思います。
（女性　20代　主婦）

・　薬物のことですが、環境や友人の影響を受けやすい子供たちを薬物乱用の誘惑から守るには、親子のコミュニケーションが重要と聞きましたが、親御さんのなかにも正確に知らない人も多いので交通安全教室のように、親子参加型のイベントも計画していただけると良いと思います。
（女性　50代　パート・アルバイト）
・　私たち学生が今最も身近に感じている犯罪は、インターネットを利用した犯罪です。インターネットの普及に伴い多くの若者がネットを利用するようになりましたが、それに伴い犯罪に巻き込まれる機会も多くなりました。しかし、多くの人は犯罪から自身を守る術を知らない、あるいは持たないままネットを利用しているように感じます。また、ネット上のマナーが身に付いていない人も多く見受けられます。ネット上の犯罪対策や基本的なマナーを早いうちから指導する機会を設けるべきだと思います。学校に限らず、そのような情報を子供向けにわかりやすくまとめたサイトや資料を作り、広めていければ良いと思います。それに加えて、ワンクリック詐欺フィッシング詐欺などがどのように行われるのか、警視庁のサイトなどに例を上げて実際に体験できるようにすれば、危険性が伝わりやすくて良いのではないでしょうか。（女性　20代　学生）

○　情報発信・情報共有等についての意見

・　市民に向けて「警察は日ごろこんなことしているよ」といった警察の取り組みをアピールする。
（女性　50代　会社員）
・　日々、どんな犯罪が起こっているのか。それに対して、警察はどのように対応しているのか。警察に限らず、どこに相談をしたらいいのか等、情報発信をしてもらえると助かります。
（男性　40代　会社員）
・　近所に不審者が現れたらメールが来る設定をしているのですが、こういう人が現れましたというメールはきますが、捕まりましたなどのメールは今まで来たことがないように思います。プライバシーの問題もあるかと思いますが、いつまで警戒した方がよいのか分からずずっと警戒して歩くようになってしまいます。もしメールが来た不審者が捕まった時にはそれもメールで知らせてもらえたら良いと思っています。（女性　20代　会社員）
・　警察の広報の方のお話を伺う機会がありました。良い意味での「警察の利用法」といった感じのお話や、最新の犯罪の情報、防止等のお話で、警察に対する印象が変わりました。以前に比べ、派出所に警官の姿を見ます。住民にとって、「身近」な存在であろうとして頂けたら、と望みます。（女性　40代　主婦）
・　もっと身近に警察を感じることができるようにしてほしいと思います。警察署から不審者情報のメールが来ますが、事象だけが書いてあります。そこに、たとえば、「パトロールを強化しています」とひとこと書いてあったら、どれだけ安心かと思います。実際、近所で不審者情報が流れたあと、パトカーが巡回しているのを見ることが多いです。（女性　40代　会社員）
・　自分で気を付ければある程度防げる犯罪は、各人の意識向上が必要と感じます。その為に犯罪情報提供の促進は必須と思われます。漠然と、ひったくりに注意と言われるより実際の事例（場所、時間、経緯等）を知れば身近で起きている犯罪をより肌で感じるのではないでしょか？また、犯罪事例と共に自己防衛のポイント等も付けて頂くのが良いと思います。以前、夜間に路上で警察官に会い、近くでひったくりがあったので、バッグはどちら側に持つ方が良いか教えて頂いた事があり、以来気を付ける様にしています。警察にとって、そんな事と思える小さなヒントが一般人には大きな助けになります。又、犯罪情報は各地域ごとに（可能であれば、各警察署ごと）幅広い年代に提供する事で、ある程度の効果が得られると思います。インターネットを利用しない人や新聞を読まない人も多いので、警察からの情報の入手方法はテレビの協力を得るのも一助になるのでは？（女性　50代　パート・アルバイト）

○　自治体等との連携についての意見

・　警察に総てを求めるのではなく、官民が協力して取り組む必要を感じる。特に、できるだけ多くの一般人が関わることで、広く社会や学校、家庭などに意識が広がると思う。
（男性　50代　会社員）
・　警察と街、自治体が一体となってパトロールするような姿勢及び町づくり。
（女性　40代　パート・アルバイト）

・　街の自治会等との懇談に地域の警察官が出席していただき、日常的な顔見知りをはじめ、住民の不安・要望の吸い上げの機会を増やしてほしい。（男性　70歳以上　無職）
・　美しい街づくり、見守り合う街づくりにより、犯罪が減り、安心して暮らせるよう、警察だけでなく、自治体、都民・都内勤務者・通学者等が協力して行動していければと思います。そのためには、消防が防災の視点から学校・会社等へ視察・指導を行うように、ほかの犯罪防止のために警察が制服で指導に入ること、教育講習会などの参加を義務付けること、自治体の取り組みを強化することなど、もっと強制的に切り込むことも必要だと感じています。ボランティアもありがたく大切なことですが、どこの家庭でも防犯という認識を強くもつためには、生活の一部としての取り組みが必要だと思います。（女性　20代　会社員）
・　地域密着の業種と協力して、犯罪を予防出来ないでしょうか？２４時間営業のコンビニ、２４時間稼働の地元のタクシー業界などなど。そうする事で、多くの情報を提供してもらい、少しでも、安全に暮らせる街作りが出来ればと思います。（男性 50代　会社員）

○　相談しやすい環境についての意見

・　巡回の際に、子供たちと挨拶などを通してコミュニケーションを図っていただけないでしょうか。子供にとっては挨拶などの礼儀を学ぶことになり、おまわりさんに親しみを持て、何かあったときに、すぐに相談できる環境ができると思います。（女性　40代　会社員）
・　子供たちが、気軽に警察に相談できるような取組をして欲しい。警察の人が、学校に行き、○○交番にいるからなにかこまった事があったら、相談にきてね等。不審な人に声をかけられたり、痴漢にあっても相談に行きにくいと思う為。（女性　40代　パート・アルバイト）
・　地方に比べ都内の交番の警官は一般人とのコミュニケーションが少ないように見受けられる。ほとんど挨拶や立ち話などしているのを見かけない。威張っているようには見えないが、意識して話さないようにしているように見える。もっと気さくに話せる雰囲気を作っていただけると、市民の警察への協力意識や防犯意識が高まると思われます。（男性　50代　会社員）
・　市民からの相談に対して柔軟且つ迅速に対処していただきたい。
（女性　30代　パート・アルバイト）
・　警察というところは敷居が高く、いまだになかなか相談するには最終手段というイメージが強いです。誰でも気軽に相談できる地域に根差した対応と、受け身でなく積極的にかかわっていく姿勢をお願いしたいと思います。（女性　30代　主婦）
・　すぐに安全には結びつかないかもしれませんが、警察の方が（できるだけ頻繁に）地域をパトロールし、地域の人とあいさつを交わし、そのうち顔見知りになり、親近感がもて、小さなことでもちょっと街の改善にむけた相談、連絡を話せる環境ができれば、心強い。今は、物を無くしたり、知らない町で道を聞いたり、何か事件があった時にしか立ち寄れないイメージがあります。
（女性　30代　会社員）

○　パトロールの強化についての意見

・　警察官を大幅に増やし、パトカーではなく、自転車で地域内を一日数回巡回してほしい。見守られている気がして安心する。（女性　60代　主婦）
・　警察官の姿を見るだけで安心する事があるので、昼夜問わず、巡回を強化して欲しいです。また職務質問を強化したり、犯罪の多発地域には、パトカーの巡回を増やして欲しいです。警察官が多かったり、パトカーの巡回回数が多いと、犯罪者も減少すると思います。
（男性　40代　その他）
・　警察官の方の姿を町で見かけたりパトカーがゆっくり裏道を走っているのを見ると安心します。守られているのだと感じるときです。繁華街が怖さもありますが、人がたくさんいる、ひとりではない安心感があるのに対し、間引かれた電灯の裏道を歩くのは怖いものです。そんなときに警察官の方が巡回してくださるだけで都民は心強いです。忙しいと思いますが、交番勤務の方を充実させていただけたら嬉しいですね。（女性　50代　会社員）
・　近所で警察官の姿を見かけると安心するので、自転車や徒歩などでゆっくりと巡回していただけると有難いです。今は昼が長いので夕方でも明るいから良いのですが、夕方から暗くなる時間帯が交通事故や犯罪など不安なので、季節によって臨機応変に時間帯を代えてパトロール等して

いただけたらと思います。（女性　50代　主婦）

・　警察車両の赤色灯は走行中は常に点滅させて犯罪予防に取組んでいることを知らせる様にすべきと思います。これを見ることにより犯罪を犯しそうな人への抑止力となると思います。
（男性　70歳以上　無職）

・　深夜の繁華街の治安の悪さを感じることが多々あるので、違法な客引きの取り締まりや酔っ払い同士のトラブルを防ぐために、深夜の繁華街のパトロール等を積極的に行ってほしい。
（男性　20代　学生）

・　警察官のパトロールを強化してください。夜間や早朝など人目の少ない時間は特にです。そして駐車違反を取り締まり、不審な車と思えるならなぜ此処に車を止めているのか質問してほしい。犯罪は車を利用していると思うので。また、路上での不審な行動や身なり持ち物などがあれば、すべて職務質問して、どんな軽い犯罪でも未然に防いでください。（男性　50代　会社員）

○　交番機能の強化についての意見

・　数年前は交番に常に警察官が居ましたが、最近はパトロール中で不在が多く見受けられます。何かあった時に駆け込めるように常駐している事が安心に繋がると思います。しかし、パトロールの人員が減るのは本末転倒でもあります。警察官を増員し交番への常駐、パトロール強化等を求めます。（男性　20代　会社員）

・　交番の機能を充実させる。交番は地域の安心のよりどころとなれるので、警察官ＯＢの駐在など積極的にすすめて、不在がないようにする。（女性　50代　主婦）

・　交番にパトロールのためお巡りさん不在の時間帯がある場合は、連絡先の明記もしてほしい。１１０番するほどの緊急性がない場合、連絡に困る。（女性　50代　会社員）

○　巡回連絡等についての意見

・　数年に１度でも構いませんので、家庭訪問して、それぞれの世帯の状況確認などしていただけると、警官の方にいろいろと相談しやすい環境もできるように思います。（女性　40代　主婦）

・　以前、おまわりさんが「振り込め詐欺が多発しているので注意するように」とのチラシをわざわざ手渡しに家まで来てくれた。実際に巡回している様子を見ると、地域が守られているという安心感が持てる。（女性　20代　無職）

・　隣近所的な相互の見守りの仕組みがなくなってきている現在、地元警察（交番）の所管地域の各戸訪問（年１回でも結構）の励行が望まれる。何か警察に要望がありますかといった口上で訪問することで、個人情報云々も問題なかろう。独居高齢者の生活チェックも可能になる。
（男性　70歳以上　会社員）

○　交通の安全（全般）についての意見

・　適正で公平な取り締まり。（男性　40代　会社員）

・　暴走族などの騒音に対する取り締まり、規制を強化してほしい。（男性　40代　会社員）

・　住宅街での暴走車（速度超過運転）撲滅のため、特定の道路に「ハンプ（Hump）段差」を設置し速度低下を狙う。※欧米では主流だが日本はほとんどない。（男性　30代　会社員）

・　近くの道路は人も車も頻繁に通るが、歩道がない。交通実態を調査し、高齢者も子供も安心して歩ける道を確保していただきたい。（女性　60代　自営業）

・　集団登校の列に突っ込んだ自動車事故をニュースで見る度、全ての通学路にガードレールの設置を、もしくはスクールゾーンを増やすなどして登校中の児童の事故が無くなる事を祈ります。
（女性　30代　主婦）

・　子供の通学路等は例え交通量が規定の数を超えてなくても歩行者のニーズに合わせて、右折専用の信号を設置してほしい。（右折専用がないため、赤信号で無理やり右折する車が多発）事故があってからでは遅いと思う。（女性　30代　主婦）

・　登校時の児童の列に車が突っ込む事件が後を絶たないことから、通学路の安全確保を見直してほしいと思います。地域の人に危ないと感じている個所を出してもらい、行政と一緒に対応できるとよいと思います。また、警察の人は、違反者などへはより厳しく対応してもらいたいと思っています。（男性　40代　会社員）

○　自転車のルールやマナーについての意見

・　自転車の交通ルールを規制し、取り締まることです。なぜなら、道を逆走、２人乗り、運転中に携帯電話や傘、イヤホンを使用するなどのマナー違反が目立つからです。自転車は自動車とは異なり、「安全」だと勘違いしている人が多く、大きな事故を引き起こす可能性があると考えている人は少ないように感じます。先日、商店街を歩いているときに後ろから自転車のタイヤが足に当たりましたが、相手はすぐに逃げてしまいました。軽傷ですみましたが、もし大きな怪我をしていたらと思うと不安でなりません。歩行者の立場から言うと、注意しながら歩いていても後ろから自転車がくると避けられないときもあります。幼い頃から道路は「歩行者優先」という認識をもたせるとともに、交通ルールを学校などで教えてほしいと思います。（女性　20代　学生）

・　まずは警察官が見本を示し、些細なことにでも注意をして欲しい。（自転車の車道走行など）（女性　60代　その他）

・　自転車のマナーが悪く、子連れで商店街を歩くとひやひやする。自転車の信号無視なども厳しく取り締まってほしい。（女性　30代　主婦）

・　自転車の走行は結局のところ、どうしたらよいのか明確にしてほしい。また、車道走行の義務付けをするなら、都心の一部だけでなく全面的に整備してほしい。（女性　10代　学生）

・　自転車の運転ルールの指導も徹底して欲しい。必ず講習を受けなければいけないようにしてもよい位だと思います。（男性　40代　自営業）

○　信頼できる警察への取組についての意見

・　一部の不祥事が警察全体への不信に繋がりかねないので綱紀粛正を強く望む。（男性　50代　会社員）

・　警察官の質の向上がまず必要です。警察官が信頼信用されていなければ、何の役目にもなりません。警察官自身が規律を正し、尊敬される人格の持ち主であるべきです。（女性 50代　パート・アルバイト）

・　まず、警察自身が襟を正していただきたい。警察内部の不祥事、市民をないがしろにする保身、被害届など届出書の受け取り拒否・不受理、不適切な経費の使用、およびそれらの隠蔽は、警察への市民の信頼を裏切る行為であり、「安全で安心して暮らせる街、東京」のスタート地点に立つこともできないのではないでしょうか。我々は、日々誠実に真面目に市民のために労を惜しまず身を粉にして働いてくれている警察関係者の方々がいることもわかっています。その人たちが頑張って下さる限り我々は協力を惜しみません。（女性　40代　学生）

○　その他

・　出来るだけ街灯を設置して暗い場所を少なくする。（女性　60代　無職）

・　出所者の再犯防止への取組。（男性　20代　会社員）